会報 高鷲の文化財

第 17 号 平成 26 年 11 月 4 日発行
郡上市高鷲文化財保護協会

題字：麦島　博昭　氏

平成26年度若狭・近江研修旅行報告

本年度の文化財県外研修旅行は、10 月 27 日（月）と 28 日（火）の両日、福井県と京都府にある若狭湾沿岸を中心に、またそこから山を一つ越した琵琶湖周辺の文化財や歴史的遺産を見学した。参加者は１５名であった。

研修当日は、夜明け前に雨が降り、さいさきの悪い研修旅行に成りそうな感じであったが、出発時間の７時頃になると雨も止み東の空に青空が見えるようになった。今年は遅刻者もなく、予定通り振興事務所前を出発。運転手さんも気さくな方で皆さんとの会話も弾んだ。白鳥の大島で Y　氏が乗車、いよいよバスは舞鶴引揚記念館を目指して一路東海北陸道・名神高速道・北陸道・舞鶴若狭道をひた走った。舞鶴若狭道に入った頃から雲行きが悪くなり、日本海側特有の時雨れた感じの空模様となったが、バスの中は会長の話やＮ氏のブログの話など楽しい会話が続き時間の経つのを忘れ、舞鶴市の昼食場所へ到着した。昼食は若狭牛すき焼きで、ひるからこんな美味しいものを食べられてお腹がビックリしている。昼食後はいよいよ研修の始まりである。

舞鶴引揚記念館見学

舞鶴では、旧ソ連、中国などの大陸から 13 年間に 66 万 4531 人の引き揚げ者と 1 万 6269 柱の遺骨を迎え入れた。終戦時、大陸に残された日本人約 57 万人がソ連へ送られ、長い年月辛い抑留生活を強いられた。舞鶴では引き揚げ船が入港するたびに市民が引き揚げてこられた人々を心から歓迎し、慰問し、勇気づけた。引き揚げの様子、肉親との再会、そして未だ帰らぬ我が子・夫を待つ婦人の姿（端野いせさん）がいつしか「岸壁の母・妻」といわれ、歌や映画になり、人々の涙を誘い、高鷲文化財保護協会の会員もガイドの説明に対し涙をした。

ガイドから説明を受けている会員

展望台から見た引揚港

身に入(し)むやシベリア抑留体験談　（和美）

橡山明通寺拝観　（真言宗御室派）

今にも雨が降り出しそうの中明通寺に着いた。この寺は、坂上田村麻呂の創建と伝えられ、本堂と三重塔が国宝に指定されている。また本尊の薬師如来坐像や降三税明王立像など数多くの寺宝が国重要文化財に指定され、入口にある樹齢約 500 年の「かやの大木」は天然記念物に指定されている。

三重塔では特別公開が行われており、正面には、釈迦如来坐像が、裏面には阿弥陀如来坐像が拝観できた。

国宝三重塔を拝観した後の会員

秋深し暗きに在(おわ)す阿弥陀仏　（和美）

熊川宿

翌日、天気は快晴であるがとても寒い朝で、北海道では雪が降ったということらしい。最初の見学地、熊川宿は江戸時代に宿場町として栄え、現在は国の伝統的建造物群保存地区に指定されている。この道は「若狭街道」とも呼ばれ、途中の保坂から南に折れると大原から京都に至る「鯖街道」になる。現在も住人が住み、熊川葛や土産物を販売しており、会員たちは店のおばさんたちと談笑したり、買い物をしたり江戸時代にタイムスリップした一時を過ごした。なお、郡上市八幡町も伝統的建造物群保存地区に指定されており、町づくりに参考となる見学地であった。

熊川宿にある国重要文化財建造物

白鬚神社参拝

社伝によると垂仁天皇 25 年に倭姫命が社殿の再建し、天武天皇の白鳳 2 年に勅により比良明神の号を賜り、社殿が造営されたという。現在の白鬚神社は猿田彦命を祀るが、本来は背後の比良山系に坐す比良明神を祭神としたと考えられる。なお、鳥居は 1981 年に新築移転されたものである。

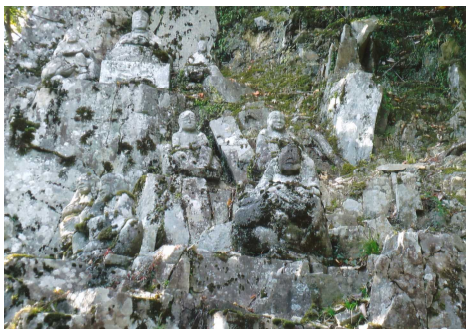
白鬚神社全景

湖上にある白鬚神社鳥居

大鳥居建ちゐる湖（うみ）の水澄める　（和美）

永源寺拝観

「鮎の家」で昼食後、いよいよ最後の見学地湖東の永源寺である。この寺は、1361 年に近江の領守佐々木氏頼が寂室元光禅師の高徳を慕い、禅師を迎えて開山したという。江戸時代には彦根藩井伊家の帰依を受け、明治時代以降は臨済宗永源寺派として独立し、一派の本山となった。また、この寺は山門、方丈や十六羅漢像など文化財も多く、紅葉の名所としても知られている。晩秋の古刹は紅葉が美しく、観光客の少なかったので、会員は心静かな一時を過ごした。



十六羅漢像

方丈（本堂）

石仏の磴のぼるごと紅葉濃き　（和美）